30th

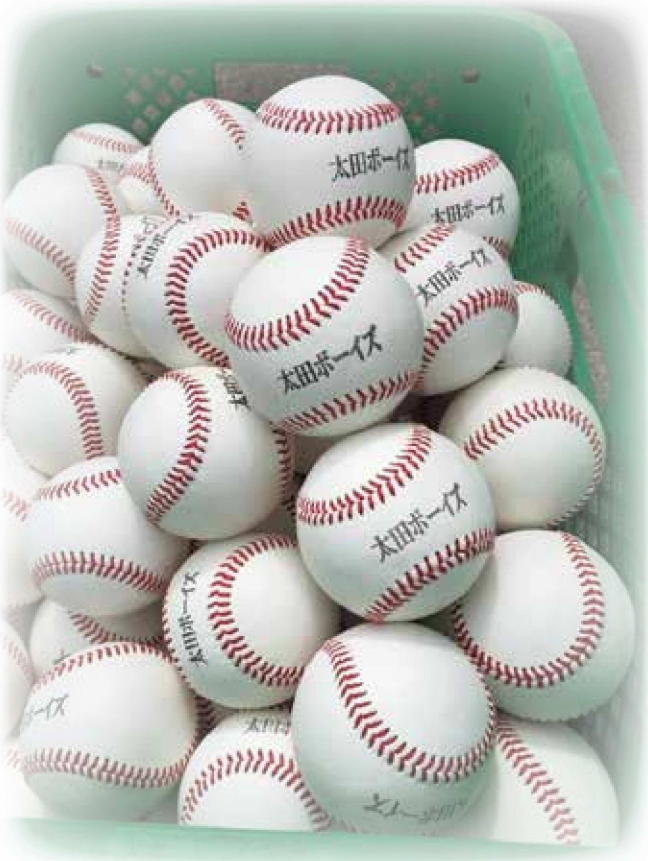
1991-2021

創立30周年記念誌

Anniversary

群馬県
太田ボーイズ

太田ボーイズ
創立30周年記念誌



全力の声、全力疾走、

全力のカバーリング

初代代表
盆子　義人

現代表
藤野　和浩

太田ボーイズ　設立30周年を迎えて

現代表　**藤　野　和　浩**

太田ボーイズは、平成３年４月設立より30年が経過いたしました。

一昨年の年末より、世の中を追い込んでいる新型コロナウイルスの影響を受け、活動の休止要請、活動制限等を受け、昨年・今年と卒団式を、卒団生及び父母、監督・コーチ・代表のみで行うなど、満足な活動が出来ない中、チーム設立30周年を迎え、今の時期何ができるかを考えた結果、今回チームOBの皆様のご協力を頂き、記念誌を作成いたしました。

この記念誌を通し、各年代の思い出を振り返りながら、今後とも太田ボーイズに対し、ご支援・ご協力いただければ幸いです。

設立経緯について

日本少年野球連盟　群馬県支部設立10周年記念誌に掲載された、初代代表　盆子義人氏（平成23年２月６日ご逝去）による掲載内容を抜粋したものです。

設立経緯としては、太田市内より昭和62年10月に２名が旧全前橋ボーイズに入団したことにより始まります。

その時期より湯浅監督（故人・全前橋ボーイズ監督）、埼玉県支部役員・関東理事の川村氏（故人）から太田地区のチーム設立要請がありました。

チーム設立要請を度々受ける中、平成２年９月に当初入団２名の卒団を期に、設立検討をし、平成２年10月に太田ボーイズで設立準備委員会を太田高校卒業のスポーツ仲間に相談して発足し、委員の選考、支持者探しを開始しました。

平成３年７月13日に日本少年野球連盟より加盟決裁が下り、２年生10名・１年生７名・小学６年生15名によるチームのスタートとなりました。

当初の運営は全て、準備委員会のメンバーと５名の父母で行い、マルチ担当で、練習場・球場確保・遠征・広報等の人にあたってもらい進めていきました。

設立セレモニーを盛大に行った以降、毎年諸々な波風が立つこともありましたが、三年生卒団時には三年間子供の成長を間近で一緒に見られた事と、【親としても成長させていただきました】と言葉を聞いたときは、「設立して良かった」と感じ、現在に至っています。

指導者との会話の中で、卒団した選手が高校野球・大学野球・社会人になった時、身体と時間の都合がついた時にグラウンドに来てくれるチーム作りをしたいと話しておりましたが、現に時に触れてOBが今も来てくれて、うれしい限りです。

10年後、20年後を見据えて

監督 檜野 武一

太田ボーイズ創立30周年誠におめでとうございます。

ありがたいことに創立時からコーチとしてかかわらせていただき、その後監督も務めさせてもらい現在に至ってます。（途中、仕事の都合で鹿児島へ２年半ほど離れましたが……）

この30年を振り返ってみると、約300人の選手といっしょに土日を野球で過ごしその１割ほどが甲子園に出場。甲子園には行けなかったものの、プロに入り活躍している選手も。まだ土曜日が半日学校授業の時代、スパイクが金具ではなくポイントの時代、そして、所属支部は埼玉県。といったところから始まっていますので、大きく変わって今に至っています。

思いの強さ…（上手い下手はさておいて）甲子園、プロを本気で目指している選手たち。土曜日、風邪気味で学校を休んでも、午後になると熱が下がったからと楽しそうに練習に出てきた選手。

ユニフォームのデザイン…
当時の日本代表（今なら侍ジャパン）をベースに
襟、袖、足にラインをあしらい中学生の躍動感を表現し
胸のマークは勤務先のトップカーデザイナーに力強さを求めて
漢字の［太田］＋［BOYS］にデザインしてもらい
団旗は会社同期のデザイナーに楽しさと力強さを漫画チックに描いてもらい
帽子のマークは素人の私が、OとBの一筆ながらもどっしり感を表現したつもりです。
背番号は愛着を持ってほしいと願い一人一人に似合う番号を選んできました。
特にＯは当時常識外で連盟本部に使用の承諾を得たものです。

野球の楽しさ伝えたい

「硬式野球の楽しさを伝えたい」と話す檜野さん

中学生硬式野球チーム「太田ボーイズ」監督
檜野　武一さん（44）＝邑楽町中野

「高校に入って硬式野球をやりたい」「甲子園に出場したい」と夢見る中学生に、高校生になった時に役立つよう、基本的なプレーを指導している。

東北高校から早稲田大に進学、甲子園には出場できなかったものの、六大学ではピッチャーとしてマウンドに立った。卒業後は太田市の富士重工業に就職、社会人野球の選手としても活躍した。

選手を引退後、しばらく野球を離れていたが、十年前に「太田ボーイズ監督に」の声がかかり、「野球が好きだと思い続けてほしい」と願いながら指導に当たっている。

また、子供たちには野球だけでなく勉強も大切だと言い続けている。「立派な社会人になってほしい。そして生涯野球を好きだと思い続けてほしい」と願いながら指導に当たっている。

「貞観政要」という中国、唐の時代の太宗皇帝の国の治め方を記した帝王学を学ぶ本がありますが、その中で“創業と守成といずれが難きや”という問いかけがあります。国を興すエネルギーと国を守り続けるエネルギー、どちらも大変ですね。

太田ボーイズ設立時の熱い思いを忘れず、これからさらに10年、20年とつなぐ想いを新たにし、これからも中身にこだわり（選手が）成長を実感できるチームとして存在し続けたい。

また、高校、大学、社会人、プロなど、うえで活躍しているOBがやってきてもきっかけを与えられるチームであり続けたい。人間性含めた育成に重点を置き、周りの皆様の力を借りながら、選手の成長のために微力ながらも野球界、社会に尽くしていきたいと思いますのでこれまで以上の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

太田ボーイズ創部30周年に寄せて

報知新聞社事業部 ボーイズリーグ担当　芝　野　栄　一

ボーイズリーグを担当して24年になりました。昨年50周年を迎えたリーグのほぼ半分の歴史を見てきたことになります。担当になった当時、現在の東日本ブロック（北海道、東北、関東甲信越）は関東に小中合わせてわずか60チーム。今は活発に活動している北海道、東北、栃木県各支部に所属チームはありませんでした。

太田ボーイズ関係者で初めて出会った人は初代代表の盆子義人さん。熱血漢で地元太田の野球を底上げしようという思いで発足させたという動機など、いろいろ熱心に教えていただきました。勝負へのこだわりは強く、負けた試合の後に子どもたちと同じように座り込んで肩を落としていた様子を今でも覚えています。ぶっきらぼうで顔も怖かったのですが、一度打ち解けると、とことんお付き合いのできる方という印象を持っていました。平成23年に亡くなられたときは、本当に残念に思いました。

ボーイズリーグを知る人の間で太田ボーイズといえば一番に檜野武一監督の名前が挙がりますが、もちろん私もその１人です。2003年、スポーツ報知で毎週連載の「ボーイズリーグ特集」が始まった頃、太田ボーイズは関東ボーイズリーグ大会で２連覇するなど際立った強さを見せていました。そのため取材する機会が多く、毎回選手の指導方針などを詳しく聞かせていただきました。檜野さんは「基本」を何よりも重視し、少年野球でも最近ようやく浸透してきた「教えるのでなく選手自身に考えさせることで自主性を育む指導」をその頃から取り入れていました。「結果より内容」が口癖で、「３年間でどれだけ伸びたかが大事」と試合の勝ち負けよりも選手の成長を重視する姿勢をかたくなに貫いておられます。

思い出話をひとつ。檜野監督のこだわりの一つに「徹底した全力疾走」があります。関東ボーイズリーグ大会で連覇した当時は見ている人が驚くほどの徹底ぶりで、球場の本部席でもよく話題になっていました。その頃、神奈川では若き新監督を迎えた湘南ボーイズが頭角を現しましたが、太田ボーイズには勝てません。選手の力は互角でしたが、太田の選手のキビキビとした姿勢や積極性が先手を取る試合展開につながりました。湘南も全力疾走は十分心掛けていましたが「まだまだ取り組みが足りない」と気付き、その経験を夏の全国大会優勝など、その後の躍進につなげたのです。

創部30周年おめでとうございます。その歴史でソフトバンクの周東選手や東北楽天の岡島選手を輩出しただけでなく、育成重視の姿勢がほかの多くのチームに影響を与えたことと思います。「群馬の雄」として今後40年、50年と末永くご活躍されることを心より祈念申し上げます。

OBの活躍　プロ編　Activity of OB　Professional Edition

人格形成の基盤となった３年間

オートレーサー　〈８期〉　**仲田恵一朗**

太田ボーイズ30周年記念誌の発行おめでとうございます。８期の仲田恵一朗です。職業は公営競技であるオートレースの選手をしています。

当時を振り返ると人格形成に１番影響を受け、今の仕事にプラスになるようなメンタルの成長があったと思います。檜野監督の指導のもと積極性だったり、自分で物事を考えみんなの前で発言したり、行動に移したり。そういった部分が中学生のうちに身についたおかげで、その後の人生を常にポジティブに考え、行動に移すという生き方ができてきたんじゃないかなと思います。私の場合、今でもレースのスタート前は緊張しますが苦しい緊張ではなく楽しみな緊張の方が大きいです。

それとレースを振り返って反省点をみつけ、次のレースで活かすという事をしますが、これもボーイズ時代にしていた事だなと思います。今思えば当時は気付きませんでしたが、野球を通して大切な事を教わっていたんですね。（自分自身も含め）人が成長するには何が大切か？多くの基礎をボーイズで学んでいたと言う事です。だから現役のみなさんは漠然と野球をやるのではなくボーイズでやる事の一つ一つの意味を理解して頑張って欲しいと思います。絶対プラスになると今自信を持ってアドバイスさせていただきます。

「目標」と「継続する」大切さ

NPB審判員　〈11期〉　**長川　真也**

一般社団法人
日本野球機構提供

太田ボーイズ設立30周年、おめでとうございます。

私は11期長川真也です。現在NPB審判員をしています。

私は太田ボーイズでは、主将もやらせてもらいましたが、なかなかみんなをまとめることが出来なかった思い出があります。

しかし、まとめるようには努力し続けました。

継続して何かをやり続けることは、簡単なことではありませんが、目標を持ってやり続けることが出来れば、達成することが出来ると思います。

私はNPB審判員になるという目標を大学生のときに持ち、それから３年間くらいは時間が掛かりましたが、やり続けた結果、今こうしてNPB審判員として仕事することが出来ていると思います。

現在もシーズン毎に目標を立て、その目標を達成する為には、何が必要なのか考えながら過ごしています。

太田ボーイズでの経験は、いずれ必ず自分の為になるので、それに向かってやり続けましょう。

プロ野球の試合で一緒に立つことを楽しみにしています。

指導者を夢見て

元千葉ロッテマリーンズ　〈14期〉　**吉田　真史**

太田ボーイズ設立30周年、誠におめでとうございます。

私は、14期生吉田真史です。

現在は群馬県太田市の中小企業で働き、草野球チームで野球をやっています。

太田ボーイズ時代の思い出としては、先輩方や同期のレベルも高く、練習も厳しくてついて行くのが精一杯でした。

そんな中でも、野球を通じて学んだ事は、最後まで諦めずやり続ける事で、自分の夢に向かっての一歩だと勉強させて頂きました。夢を持って努力する事は、簡単な事ではありません。しかしそれを継続してやり続ける事に意味があると思います。

後輩のみんなに伝えたい事としてグラウンドに立てば、先輩、同期、後輩みんながライバルです。失敗を恐れず、何事にも負けない気持ちを持って自分の夢に向かって努力してほしいと思います。

最後になりますが、檜野監督と出会い、野球の厳しさを強く教えて頂きありがとうございました。自分も子供達に野球が教えられるように第二の人生として、指導者にいつかなれるように努力していきたいと思います。

「野球が好き」～楽しむことを大切に～

東北楽天ゴールデンイーグルス
〈13期〉岡島　豪郎

この度は太田ボーイズ創設30周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

太田ボーイズでの私の一番の思い出は小学校の時に戦った仲間や、中学一年生で凄い選手がいて最初は本当に驚きました。そのメンバーで全国大会に出られたことです。

後輩の選手の皆さんに伝えたいことはまず野球が上手くなる為に絶対に必要なことは野球を好きになることです。野球を好きになれば色々な困難にもぶつかっていけます。人として野球人として成長できるはずです。夢・目標持って大好きな野球を楽しんでください。

太田ボーイズが今後創設40周年、50周年と続けてもらいたいですし、縁があって関わらせていただいたチームですのでこれからも大事にして応援していきます。

©Rakuten Eagles

当時の監督's Comment

関東学園大学附属高校
梶田　将人

太田ボーイズ野球発足30周年を迎えられることを心よりお祝い申し上げます。指導者ならびに保護者を含む関係者の皆様に対し「敬意」を表します。おめでとうございます。

私も高校野球指導者を長く務めさせていただき、太田ボーイズ出身者12名預かる事が出来ました。大塚・砂永・倉上・中村・永沼・岡島・金田・武藤・山川・高津戸・藤田・藤崎の選手たちです。特に岡島は武藤と共に「野球小僧」でした。教室とグラウンドでは別人になれる程「野球」が好きでした。好きだから練習をするし、研究もしました。高校野球時代チームとして好成績を残せませんでしたが、野球に取り組む姿勢を高く評価していただいた白鷗大学で、プロ野球界・社会人野球界から高い評価を受ける選手に成長してくれました。本人からプロでやりたいと相談を受けた時は心配もありましたが、野球に対する真摯な気持ちを持っており何も言うことがなかった事を今でもはっきり覚えています。今年で10年目を迎えるプロ生活。外野手として再挑戦です。多くの方々が応援している事を忘れず充実したプロ生活を送ってください。

次に檜野監督について少しお話します。私と彼は高校時代練習試合で対戦しています。東北高校対中京高校（現中京大中京）です。

５年後に群馬県で再会するとは。本当にびっくりでした。彼を表現すると「真面目」「努力家」私は彼には敵いません。そんな彼に監督を任せておけば安心です。ますますのご活躍を祈念して結びとします。

◆岡島豪郎と武藤悟章（13期）　太田ボーイズ、高校、大学とバッテリーを組んだ二人

スポーツ報知　2020年（令和2年）3月11日（水曜日）

ボーイズリーグ50周年企画「歴史をつくった古豪チーム」

太田 自主性引き出し再び全国へ

創部は91年

「教えすぎず適度な距離でサポート」

現在部員は3学年27人

NPB2人

一番印象に残った13期生

あの時 のチーム

太田涙4強ならず

土台を築く

2020年３月11日スポーツ報知

かけがえのない仲間とチャレンジ精神

福岡ソフトバンクホークス
〈19期〉周東　佑京

福岡ソフトバンクホークス㈱提供

2021年１月１日ボーイズリーグニュース

太田ボーイズ30周年と記念誌の刊行、おめでとうございます。

「先」を見て、希望を持って

ボーイズ時代を振り返って真っ先に思い出すのは、練習がきつかったということ。「全力の声、全力疾走、全力のカバーリング」という合言葉からもわかるように、何をやるにも全力ですから気が抜けない。当時の私は体が小さく、目立った選手ではありませんでした。その中で自分にできることをやろうと、とにかく動くことを心がけていました。そうしているうちに監督やコーチから再三言われた「全力の声、全力疾走、全力のカバーリング」が自然にできるようになり、それが自分のプレースタイルになりました。

正直言って逃げ出したくなったときもありました。ケガをしてグラウンドに立てなくて悔しい思いをしたこともあります。そんなとき監督から「グラウンドをよく見ておけ」と言われました。すると、プレー中は気づかなかった他の選手の動きや役割が見えてきた。どんな状況でも学べることに気づきました。「今がピークではない、高校で通用する力を養う時期」と言われたのも大きかった。この言葉があったから「先」を見て、希望を持って次のステージにチャレンジすることができました。

太田ボーイズは、選手みんなに光を当ててくれるチーム。特定の選手だけにスポットライトを当てるのではなく、それぞれのよいところを引き出してくれたので、仲間同士が認め合い、プレーを通じて心の絆が強まりました。そういう仲間と会える週末は楽しみでした。一番の思い出は、ダイヤモンドペガサス杯で優勝したこと。特に印象深いのは、準決勝戦です。一打出れば逆転という裏の攻撃。セカンドのランナーで出塁していて、サヨナラのホームを踏んだんです。みんなで勝ち取った勝利、うれしかったですね。仲間とは今も連絡を取り合っていて「試合見たよ」と連絡をくれたり、年末年始にみんなで集まったり。顔を合わせればボーイズ時代に戻れる、かけがえのない仲間です。

プレーヤー、人間としての礎

大人になって改めて、監督、コーチ、OB、保護者のサポートの有難さを実感します。思春期にさしかかる時期、太田ボーイズに所属していたから野球を真ん中に、周りの大人や家族と共通の話題ができたし、同じ時間を過ごすことができました。時間、経験、仲間とたくさんの宝物ができました。ボーイズで学んだことが、プレーヤーとしても人間としても礎となっています。

後輩に伝えたいのはチームの合言葉を忘れずに、何事にも積極的に臨んでほしいということ。積極性は、うまくなるための絶対条件です。積極性があれば前向きにチャレンジできる。その分、失敗も多いですが、失敗を恐れず挑む積極性は、自分の力を何倍にも引き上げてくれます。

これからも太田ボーイズならではの素晴らしい伝統が、いつまでも続くことを祈っています。